

## 第1学年実践事例 「おしごとだいさくせん～おまかせ！にこにこたい～」からの抜粋

単元名 おしごとだいさくせん～おまかせ！にこにこたい～

### 単元について

#### ・自ら考え学びを深め合う授業をめざして

本単元において、子どもの気付きが高まる過程を、次のように考えている。

#### 第一段階

体験する中で、事実をとらえたり感じたりし、自分なりの見方や考え方ができるようになる段階

(例：家庭で仕事に取り組む中で、「洗濯物は端を揃えてたたむ。」「食器は水につけておくときれいに洗える。」など家の人に教えてもらい様々な自分の気付きが持てる。)

#### 第二段階

個々の気付きが学級全体で共有され、次の学習の基になり、新たな気付きが生まれる段階

(例：学校で報告会や発表会を開き、交流し合うことで、「自分の家のやり方と違う。なるほど、こんなやり方もあるんだ。」とか「自分もできそう、やってみよう。」とか自分の気付きと比較し、広げていく。)

さらに、第一段階と第二段階を繰り返し体験する中で、よりよいものを自分が選び、次の活動へつなごうとするとともに学びが生まれてくるのではないかと考える。

また、この学習を進めるに当たっては、友達の見取りがそれぞれ見えるように、一覧表を教室に掲示し、仕事を紹介し合う場や発表会を設けると同時に、教師が気付きを引き出す発問や自信を持たせるような声かけをすることで、子どもの気付きの質を高めていきたい。

### 単元の目標

家の仕事に関心を持ち、自分ができる仕事を見つけてやってみたり、続けていこうとしたりする。

家庭生活を支えている家族のことや自分にできることについて考えることができる。

家族の役割や大切さに気付くとともに 家の仕事ができるようになった自分の成長や友達のよさにも気付く。

### 学習指導計画・評価計画(全13時間、国語1時間)

内の数字・・・時間数      学習活動      関心・意欲・態度      思考・表現  
 < >内・・・評価方法      気付き      ・児童の予想

	目標	学習の流れ(学習活動・児童の反応)	評価規準・支援( )
思い・願い	家庭の中で誰がどんな仕事をしているかに気付く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夏休みにしたお手伝いを発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お風呂そうじをしたよ。</li> <li>・洗濯物をたたんだよ。</li> <li>・いろいろな仕事があるんだね。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家の中の仕事を見つけよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんがアイロンをかけていたよ。</li> <li>・お父さんが晩ご飯を作っていたよ。</li> <li>・家の中にはいっぱい仕事があるんだね。</li> </ul>	夏休みのことを振り返り、進んで発表しようとしている。 <発表・会話> 夏休みのお手伝いカードを基に発表する。家の仕事に関心を持ち進んで調べ、友達に紹介しようとする。 <ワークシート・会話>

つかむ	<p>家の中でやってみたい仕事を見つけ、家族と一緒に進んでお手伝いすることができる。</p>	<p>家の中のいろいろな仕事にチャレンジしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんの仕事が多いから、たくさんしてあげたいな。</li> <li>・お風呂洗いはやったことがないからやりたいな。</li> <li>・いろいろな仕事があるね。全部やってみたいな。</li> </ul> <p>(家庭で実施)</p> <p>「おすすめのしごと」報告会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お米とぎをさせてもらったけど難しいな。</li> <li>・アイロンがけは楽しかったけれど、しわがいっぱいできたよ。</li> <li>・部屋がピカピカになったので、お母さんが喜んでくれたよ。</li> <li>・家の中の仕事って大変だね。でも、お父さんやお母さんはいつもしてくれているよ。</li> <li>・お母さんが続けてやってほしいと言っていたよ。</li> <li>・私にも1人でできることがあるかな。</li> </ul>	<p>家の中でやってみたい仕事を見つけ進んでお手伝いをする。</p> <p>&lt;発表・カード&gt; 家の中でどんな仕事をしたいか発表させたり、チャレンジカードを書いたりして意欲を持たせる。 自分が取り組んでいるお手伝いについて振り返ることができる。</p> <p>&lt;会話・発表&gt; 家族がやっている家庭の仕事の大切さに気付く。</p> <p>&lt;発表・カード&gt; 家の人からの感想を読み、続けることや1人でもできる仕事へ意識を向けさせる。</p>
-----	--	--	---

## 指導の実際

### 【第1・2時】思いや願いを持つ

#### 家の中の仕事を見つけよう

夏休みにお手伝いをした体験を振り返るところから学習に入った。「お風呂掃除は楽しかったよ。」「お米のとぎ方を教えてもらったよ。」などたくさんの発表を聞く中で、家の中ではいろいろな仕事があることを知り、「やってみたいな。」と興味、関心を持つことができた。そこで、家の中では、誰が、どんな仕事をしているのか調べることにした。見つけたことをワークシートに記入し、お母さんの仕事が多いことやお父さんやお姉さんたちもしていることに気付き、自分も家の中のいろいろな仕事にチャレンジしてみたいと意欲を持つことができた。

### 【第3・4・5・6・7時】課題をつかむ・活動する・振り返る

#### 家のいろいろな仕事にチャレンジしよう

お家でいろいろな仕事を体験するために、自分がやってみたい仕事を10個(家の仕事調べのワークシート)にチャレンジさせた。(通信で保護者の協力を得る。) チャレンジした後「おすすめのしごと」の報告会を開き、仕事をした時のことを思い出させて自分がみんなに教えてあげたいことを発表させた。また、保護者からの感想を聞くことで「もっとやりたい。家族に喜んでもらえるためにこれからも続けたい。」などの意欲につながり、「おまかせにここにこたい」になって家族をここにこにさせよう」という新たな課題を持つことができた。

#### 「おまかせ！ にここにこたい」にチャレンジしよう

やってもらったら助かることやできるようになったら嬉しいことをお家の人にインタビューし、「自分におまかせ」の仕事を決めさせた。家での活動が主なので、一人一人のがんばりが見えるように「にここにこチャレンジ一覧表」にシールを貼ったりすることで意欲の継続を図った。家庭で自分が決めた仕事を5日間実施した後、体験をもとに楽しかったことや難しかったことやこつなどを発表した。中には道具を持ってきて説明した児童もいた。紹介し合うことで自分や友達のがんばりに気付くことができた。さらに、「自分のことは自分です」という意識を持たせるために、みんなでやってみたい仕事はないかと問いかけ、上履き洗いにチャレンジすることにした。上手に洗うこつについて話し合ったり教え合ったりして、楽しみながら意欲的に活動できた。